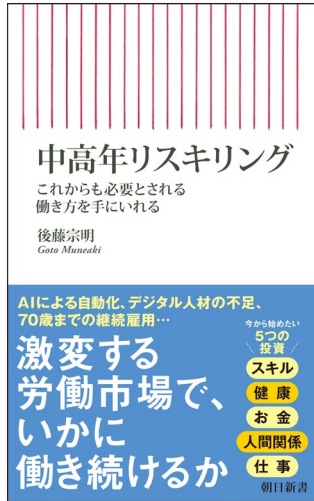




『中高年リスキリング』

～これからも必要とされる働き方を手にいれる

後藤 宗明 著

朝日新聞出版（朝日新書）

2024/08 272p 990 円（税込）

1. 定年4.0時代のリスキリング
2. リスキリングで労働寿命を長くする
3. リスキリングを開始・継続するために

【イントロダクション】

デジタル化の進展、人口減少や高齢化といった労働市場の変化、またグローバル化への対応などを背景に「リスキリング（reskilling）」に注目する企業や個人が増えている。特に、高年齢者雇用安定法によって70歳までの就業機会の確保が企業の努力義務となった中、40代以上の中高年のリスキリングの必要性は増している。本書は、人生100年時代において、長く必要とされ、働き続けるための個人のリスキリングについて解説する。定年後の働き方を見据えれば、組織に雇用される「雇用寿命」と同時に、自ら仕事を創って個人事業主やフリーランスとして働ける「労働寿命」を延ばす努力が必要だとする。また、「スキルと学び」「健康」「お金」「人間関係」「仕事」の5つに時間や労働力を投資することで「成長市場におけるスキルの獲得」「やりたい仕事に就く」などのリターンを得られると説く。著者は2021年に自ら設立した一般社団法人ジャパン・リスキリング・イニシアチブ代表理事。リスキリングプラットフォームを提供する米国企業 SkyHive Technologies 日本代表。1971年生まれ。富士銀行（現・みずほ銀行）を経て、米国で起業。帰国後、米国のフィンテック企業の日本法人代表などを務めた後、現職。

● 「定年4.0」の時代は仕事を「創る」ことで労働寿命を延ばす

この本は、人生100年時代と言われ、70歳までの就業機会の確保が努力義務となっている2024年現在、これからの人生をどのように過ごしたらよいか悩んでいる方々向けの本です。本書の一番の目的は、「これからも必要とされる働き方を手にいれる」ことです。そのための一番の解決策が「リスキリング（reskilling）」であると、私は考えています。

リスキリングという言葉は、本来は、企業などの組織が主語になり、例えば「企業が自社の従業員をリスキリングする」という使い方をします。働く個人の視点で捉え直すなら、次のように言い換えることも可能です。「新しいことを学び、新しいスキルを身につけ実践し、そして新しい業務や職業に就くこと」

経済コラムニストとして活躍されていた大江英樹さんの著書『定年3.0 50代から考えたい「その後の50年」のスマートな生き方・稼ぎ方』（日経BP）の中で、定年3.0に至る過程が、

- ・ 定年1.0：生活の不安なくのんびりと暮らせた時代
- ・ 定年2.0：「老後のお金」に関する常識が大きく変化した時代のシニア像

- ・ **定年 3.0**：「お金」「健康」「孤独」の3つの問題をそれぞれが解決していかなければならなくなったと分類されています。

そして、まだ定年前の私たち現役世代が今後向き合わなくてはいけないのが、定年後も積極的に働くことを前提にしていかなざるを得ない、という現実です。私は、その姿を「定年 4.0」として、次のように定義しました。

- ・ **定年 4.0**：リスクリッングで現在の雇用に頼らない人生とキャリアを自ら創造する

人生 100 年時代、健康寿命が今後延びていくことを前提にするならば、生活する時間も、働くことが必要な時間も長くなると考えられます。次に考えるべきは、労働寿命と雇用寿命について、です。労働寿命は働くことができる時間、雇用寿命は企業などの組織に雇われる時間、を指すこととします。

万が一、雇用されることが難しい場合でも、自分から個人事業主やフリーランスとして働くことができる場合は、労働寿命を延ばすことができます。自分で自分の仕事を「創る」ことで、労働寿命を延ばす努力をすることが、今後安心して生活していくためには必要だと考えられます。

● ホワイトカラー分野の仕事に就き続けるためのスキル

生成 AI 含むテクノロジーの進化により、ホワイトカラー人材の余剰が本格化し、自動化による効率化が進むことで、技術的失業（＊テクノロジーの導入によりオートメーション化が加速し、人間の雇用が失われる社会的課題）が現実となってきています。

一方で、主に、物流、建設、土木、介護、福祉、接客といった分野で私たちの生活を支えるインフラ関連の職業などでは、すでに需給ギャップが顕在化し、著しい人材不足が発生しています。そのため、事務職などで働いていた人は、本人の意思にかかわらず、人材不足の業界への転職を余儀なくされるといった事態も考えられます。こうした状況下で、定年後もホワイトカラーの仕事で働きたい方にとって必要なことをここで整理しておきたいと思います。

まず、何といても、「自分自身をリスクリッングしていく」スキルを持っていることが重要です。多くの方々は、次々に新しく生まれてくるテクノロジーなどによる外部環境の変化、海外から輸入されるビジネス上の新しい習慣に合わせて自分の価値観や働き方を時代に適応させ、学び続ける必要があります。デジタル分野などの成長分野においては、これからも新たな仕事生まれ続ける可能性があり、リスクリッングを行うことで変化に上手に対応していくことができます。

みずほ情報総研による 2019 年の調査では、2030 年には約 79 万人の IT 人材が不足すると試算されていました。全世界的に IT 人材の給与は高騰している状態です。リスクリッングに早くから取り組み、デジタル分野でキャリアを積むことができれば、定年後にも、人材不足のデジタル業界で高賃金を得ながら活躍できるチャンスが広がる可能性があると考えられます。

また、個人事業主（フリーランス）として活躍できるレベルになれば、複数の案件を抱えることも可能であり、選択肢を広げることができます。デジタル分野については、今後、年齢不問のスキルで勝負できる分野となっていくと考えられます。

● 自分の得意分野が、不確実な時代のキャリアや雇用を支える

これまでの日本では長らく、本業を極めることがよいこととされ、副業は本業の邪魔になるといったマイナスの視点で見られることのほうが多かったように思います。ですが、ここ数年、副業が認められている会社の割合は年々上昇しています。

副業を行う理由は、収入アップ、自己実現、リスクリッング等、さまざまあると思いますが、私は副業によって全く分野の異なるスキルを掛け合わせていくことが、将来の自分の雇用の安全性を高めていくと考えています。

これからは、誰でも自分の好きなことに本気で取り組み、それが副業となり、本業を行いながら複数のスキルを身につけていくことが求められる時代になっていくと思われます。

会社員の方も何か一つ、ご自身の本業以外に、趣味も含めた専門家として自分の得意

分野を持ち、できれば時間をかけて複数の分野のスキルを身につける努力をしておくことが、不確実な時代に自分自身のキャリアや雇用を支える「芸は身を助ける」好循環を生み出すだろう、ということです。

●自分のやりたい仕事に就くための5つの投資先

私は40代でクビを3回経験し、書類選考や面接で100社以上に落とされ、年収も一時期は3分の1にまで減りました。振り返ってみると、リスクリリングした結果として、いただいた数少ないチャンスをつかむことができたのではないかと思います。

私自身が経験してきて痛感しているのは、「リスクリリングは自分への投資」であるということです。自分の時間と労働力、場合によってはお金を使って、自分自身に投資をするのです。投資なので、リターンを最大化することが目的です。リスクリリングの場合は、成長市場におけるスキルを獲得する、自分のやりたい仕事に就くといったことがリターンとなります。

一方で、投資であるということは、よい結果が出るかどうか分からないという側面もあると言えます。リスクリリングに取り組んだ結果、外部環境が急速に変化して、スキルが陳腐化してしまって軌道修正を強いられたり、スキル以外の要素が原因で自分のやりたい仕事に就くことができないといったことも考えられます。

そのような事態を避けるために、意識的に選びたい投資先が次の5つです。1つ目は、「スキルと学び」です。働きながら身につけてきたスキルも放っておくと価値が陳腐化していきます。そのため、新しいことを学び続け、実践していくことで、必要とされるスキルを維持していく必要があります。

2つ目が「健康」です。放っておくと加齢とともに気力と体力が低下し、定期的に健康状態をチェックしないと重篤な病気にかかるリスクも高まっていきます。そのため、運動も含め、健康を維持するための投資が必要になります。健康に投資をすることで、労働寿命そのものを長くします。

3つ目が、「お金」です。長期的なトレンドが円安とインフレのままだと資産がどんどん目減りします。一定のリスクを取って、資産形成に取り組む必要があります。資産運用することで、長期化する労働寿命を支えます。

4つ目が、「人間関係」です。培ってきた人間関係もしっかり時間とお金を使って維持していかないと、どんどん範囲は縮小し、新しい出会いも生まれていきません。特に定年後を見据えた中では、自分よりも下の世代との関係構築に意識的に投資をしていく必要があります。

最後の5つ目が、「仕事」です。つまり、どのような仕事に自分の時間と労働力を使うのか、ということです。早期退職、役職定年、定年による再雇用といった雇用環境の中に身を任せていると、仕事環境そのものの選択肢が狭まっていきます。自分が就職可能な仕事の選択肢を増やすために、副業や兼業も選択肢にいれて、自分の就業可能なポジションを複数用意できるように準備していきます。

※「＊」がついた注および補足はダイジェスト作成者によるもの

コメント：本書は主に40代以上の中高年のリスクリリングに焦点を当てているが、変化の激しい時代に「必要とされる」人材であり続けるためにリスクリリングが必要なのは、どの世代にも共通することだろう。また著者は、将来の選択肢を広げられる成長分野として「グローバル」「デジタル」「グリーン」「宇宙」に加え、「介護」の分野を挙げている。生成AIなどの技術が普及し、自動化される仕事が増えていく中、若い世代においても成長市場を見極めて長く活用できるスキルを選び、学び続けることが重要なのではないだろうか。